

この度は、「薬剤師国家試験対策参考書[改訂第13版]⑤薬理・病態・薬物治療I」をご購入いただき、誠に有難うございます。

本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。

ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

薬学ゼミナール編集 青本[改訂第13版]⑤薬理・病態・薬物治療I 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P111 10 プロトロン ビン時間 延長の原 因 2行目	…治療としては抗凝固薬(ワルファリ ン)を投与する	…治療としてはフイナジオン(ビタミン K <sub>1</sub> 製剤)を投与する
P384 ●局所麻酔 薬の特徴 アミノ安 息香酸エチル 特 徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・電荷を生じないため、脂溶性が高い</li><li>・細胞膜中に入り込み、膜を膨張させ、Na<sup>+</sup>チャネルを圧迫して阻害する</li><li>・水に難溶なので、外用剤(軟膏)としてかゆみなどに応用される</li><li>・酸性条件下でも局所麻作用を示す</li><li>・内服で胃炎などの鎮痛や、軟膏などの塗布剤として皮膚の鎮痛・鎮痙、外傷、熱傷に使用されるほか、制吐薬としても用いられる</li></ul> <p>〈適応〉 表面麻醉など 〈副作用〉 ショック、振戦、痙攣</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・電荷を生じないため、脂溶性が高い</li><li>・細胞膜中に入り込み、膜を膨張させ、Na<sup>+</sup>チャネルを圧迫して阻害する</li><li>・水に難溶なので、外用剤として用いられる</li><li>・歯科領域における表面麻酔に用いられる</li></ul> <p>〈適応〉 表面麻酔 〈副作用〉 ショック、振戦、痙攣</p>